

平成21年6月10日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2008

課題番号：18520039

研究課題名(和文) 『論語義疏』古抄本の研究

研究課題名(英文) Study on "Lunyu yishu" old manuscripts

研究代表者

影山 輝國(KAGEYAMA TERUKUNI)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：50152608

研究成果の概要：

現存する『論語義疏』抄本の所在を調査した結果、35種の抄本が確認できた(この他、4～8種のどうしても行方が判らない抄本がある)。所在の判明した35種の抄本を用いて、定本と校勘記を作成中である。(その成果の一部は発表済み)

また、それらの抄本の中でも最も詳細に訓点が施され、筆写者や来歴経緯がはっきりしている「大槻本」の翻刻訓読を試みて、文明十九(1487)年当時の訓読の様態を明らかにしつつある。(その成果の一部も発表済み)

さらに、「大槻本」その他の抄本に附される訓点や注記を参考にして、『論語義疏訳注』を作成予定である。

パリのフランス国立図書館に唐代に書かれた『論語義疏』が所蔵される。これを実見して、いままで不明確であった敦煌本の実態を明らかにし得た(詳細は後日発表予定)。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	390,000	3,190,000

研究分野：中国哲学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：論語義疏・皇侃・抄本・中国哲学・根本遜志・六朝義疏学・経学

1. 研究開始当初の背景

六朝宋皇侃の撰に係る『論語義疏』十巻は、中国において南宋の頃に亡佚したが、日本には抄本として残存した。寛延三（1750）年、根本遜志が足利学校所蔵本に拠って刊行したが、その際、体式を改めたばかりでなく、一部分を刪去したため、『論語義疏』本来の面目が失われてしまった。根本刊本に基づいて中国で作られた『四庫全書』本、武英殿刊本、『知不足齋叢書』本もみな同様である。

大正12（1923）年に武内義雄が11種の抄本を校合して、『論語義疏』校本を刊行したが、残念ながらミスプリと校訂不十分の箇所が少なからずあり、拠るべき定本とはいえない状況であった。

皇侃の思想を考究するには、安心して読めるテキストが何よりも先に必要であり、そのためにはできる限り多くの抄本を探し出して校合し、定本を作ることが肝要となる。

また敦煌抄本を精査し、日本抄本との比較を行って、皇侃当時の『論語義疏』の姿を探りたい。

2. 研究の目的

(1) 『論語義疏』（抄本）が現在、どこに、何種類残っているのか判然としないため、できる限りの調査を行い、その所蔵別リストを完成する。

(2) 所在の明らかになった『論語義疏』（抄本）を用いて文字の異同を調査し、定本、校勘記を作るとともに、各抄本間のいわゆる「親子関係」、「兄弟関係」を考究する。

(3) 『論語義疏』研究の基礎となるべき訳注の作成を行う。

(4) フランス国立図書館所蔵に係る敦煌抄本『論語義疏』を調査し、日本抄本との比較検討を行って、『論語義疏』本来の面目を推定する。

3. 研究の方法

(1) 多くの図書目録を精査して、どこの所蔵機関に『論語義疏』（抄本）があるかを確認し、そこに赴いて実物を調査した上、写真撮影をしたり、マイクロフィルムの紙焼きを作成したりする。

(2) 『論語義疏』の校勘記と定本とを作成するため、所在の判明した35種の抄本と1種のマイクロフィルム及び根本刊本、武内刊本の文字の異同を精査する。

(3) 『論語義疏』の訳注を作成する前段階として、もっとも詳細に訓点が施され、かつ筆写者や来歴経緯がはっきりしている「大槻本」の翻刻訓読を試みて、文明十九（1487）年当時の訓読の様態を明らかにする。

また、それを参考にしつつ訳注の作成を行う。

(4) パリのフランス国立図書館に行き、実際に敦煌抄本を実見して、精査する。

4. 研究成果

(1) 現在、合わせて35種の抄本の所在を確認しているので、以下それを所在別に示す。慶應義塾大学附属研究所斯道文庫

○大槻本 十巻五冊 文明十九年写 周防国明倫館旧蔵 大槻文彦旧蔵 安田善次郎旧蔵
○宝勝院本 十巻十冊 室町写 宝勝院芳郷光璘旧蔵 森立之旧蔵 大槻文彦旧蔵 安田善次郎旧蔵

○林本 十巻七冊（巻第五、六缺）室町写 小嶋寶素旧蔵 林泰輔旧蔵

○江風本 十巻五冊 室町写 江風山月 莊稻田福堂旧蔵 安田善次郎旧蔵

慶應義塾大学図書館

○天文本 十巻八冊（巻第九、十缺） 天文十年、十四年写 岡田真旧蔵

大東急記念文庫

○延徳本 十巻九冊（巻第十缺） 延徳二年写 江風山月 莊稻田福堂旧蔵

○久原本 十巻十冊（巻第四缺） 室町写 江風山月 莊稻田福堂旧蔵 久原文庫旧蔵

○江戸本 十巻五冊 江戸写 久原文庫旧蔵

京都大学附属図書館

○重文本 存巻二、四一八 六冊 清原良兼筆 船橋家旧蔵 重要文化財

○京大本 十巻九冊（巻第四缺） 江戸写 清原宣條旧蔵

前田育徳会尊経閣文庫

○応永本 十巻十冊 応永三十四年写 与謝郡金谷寺旧蔵

○三宅本 十巻五冊 明治末写 三宅氏旧蔵本の写し

東洋文庫

○上原本 十巻十冊 室町江戸間写 上原氏旧蔵 木村正辞旧蔵

○米沢本 十巻十冊 江戸写 米沢藩上杉家

旧蔵

お茶の水図書館

○宝徳本 十卷五冊 第一、第四冊は宝徳三年写 第二、三、五冊は慶長元和補鈔 徳富蘇峰成實堂文庫旧蔵

龍谷大学大宮図書館

○文明本 十卷五冊 文明九年写 西本願寺写字台旧蔵

国立国会図書館

○国会図書本 十卷五冊 文明十四年奥書本の写し 鹿島則文旧蔵

足利学校遺蹟図書館

○足利本 十卷十冊 室町写 足利学校旧蔵 重要文化財 (別に第四巻を明治期に模写せる一冊あり)

天理大学附属天理図書館

○清熙園本 十卷五冊 室町写 清熙園阪本準平旧蔵

神宮文庫

○神宮本 十卷十冊 室町写 江藤正澄旧蔵

宮内庁書陵部

○図書寮本 十卷五冊 室町写 宮内省図書寮旧蔵

蓬左文庫

○蓬左本 十卷五冊 室町写 神村忠貞旧蔵 (別に第一巻を江戸期に転写せる一冊あり)

都立中央図書館

○青淵本 十卷六冊 室町写 青淵洪沢栄一旧蔵 都立中央図書館蔵

東京大学総合図書館

○東大本 十卷五冊 江戸写 青洲渡辺信旧蔵

関西大学図書館

○泊園書院本 十卷十冊 江戸写 泊園書院藤沢南岳旧蔵

静嘉堂文庫

○静嘉堂本 存巻第二 江戸写 伊澤蘭軒旧蔵

新潟県新発田市市島酒造

○市島本 十卷五冊 弘化二年写

萩市立萩図書館

○萩図書館本 十卷五冊 江戸後期写 繁澤寅之助旧蔵

台湾故宮博物院図書文献館所

○寺田本 十卷十冊 室町写 読杜草堂寺田望南旧蔵 楊守敬旧蔵

○塙本 十卷五冊 室町写 和学講談所塙保己一旧蔵 楊守敬旧蔵

○溯源堂本 存巻第一、四、七、八 三冊 巻第一は室町写、巻第四、七、八は江戸写 有馬氏溯源堂旧蔵 楊守敬旧蔵

○故宮本 存巻第四 一冊 室町江戸間写 楊守敬旧蔵

○九折堂本 十卷五冊 江戸写 九折堂山田業広旧蔵 楊守敬旧蔵

○盈進齋本 十卷五冊 江戸後期写 盈進齋旧蔵 楊守敬旧蔵

○新井本 十卷四冊 江戸末明治初写 新井氏旧蔵 楊守敬旧蔵

以上35種

かつて有ったことは確実に、今所在の知られないものに以下の4種がある。前3者は古書店により競売に附された後、行き方不明となった。

○桃華齋本 十卷五冊 室町写 桃華齋富岡謙蔵旧蔵 (平成七年十一月附競売)

○有不為齋本 十卷五冊 加藤景範写 有不為齋伊藤介夫旧蔵 大阪府立図書館に寄託後、伊藤家に返却。(昭和十四年六月附競売)

○皎亭本 十卷十冊 皎亭内野五郎三旧蔵 (昭和十一年六月附競売)

○文之本 存巻四、五 文之玄昌写 東福寺即宗院旧蔵 (昭和十三年三月展覧の記録あり)

このほか、島田翰『古文旧書考』には新井政毅旧蔵として暦応抄本と永正抄本があったことが記され、武内義雄「校論語義疏雑識」によれば新井政毅自筆目録に「中丸呂」という人に譲られたらしい十冊本があったことが見え、林泰輔『修訂論語年譜』には法学博士戸水寛人所蔵十卷五冊本が録され、長澤規矩也「論語義疏伝来に関する疑問」には「吉田氏文淵閣蔵本 室町中期以前鈔本」なるものの存在が言及されている。

(2) 所在の判明した35種の抄本と1種のマイクロフィルム及び根本刊本、武内刊本の文字の異同を精査して、「皇侃自序」「何晏集解序疏」の定本及び校勘記を作成、発表した。

また各抄本の関係は、清熙園本、文明本、足利本、京大本、(重文本、東大本)は近い関係にあり、大槻本、延徳本、青淵本、上原本、(応永本、江戸本、新井本)は別のグループを形成し、宝勝院本、蓬左本はさらにまた別系統であろうと推定される。特に顕著なのは清熙園本と文明本との近似で、両者は「親子

関係」にあると思われる。今後、さらに各抄本間の関係を調べる予定である。

(3)「大槻本」の翻刻訓読は、すでに「皇侃自序」「何晏集解序疏」の部分を終えて発表し、引き続き作成中である。また、訳注の作成も現在準備中である。

(4) 2008年12月23日から2009年1月2日まで、パリのフランス国立図書館に赴いて敦煌抄本『論語義疏』の実物を精査する機会を得た。この抄本は学而、為政、八佾、里仁の一部であり、前篇が揃っているわけではないが、罫線が引かれ、書名を表す朱引きのほか、科段を示す鉤や円形の符号、破読字点などが朱筆で書き入れられており、東洋文庫に所蔵されるモノクロのフィルムでは確認できなかった様々なことが判明した。詳細については後日発表するつもりである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4件)

- ①影山輝國、「翻刻『論語義疏』(大槻本)－何晏集解序疏－」、『実践国文学』第75号、76～89頁、2009年、査読無
- ②影山輝國、「翻刻『論語義疏』(大槻本)－皇侃自序－」、『実践国文学』第74号、98～109頁、2008年、査読無
- ③影山輝國、「論語義疏十卷 旧抄本」、『アジア遊学』111号、208～211頁、2008年、査読無
- ④影山輝國、「『論語義疏』校定本及校勘記－何晏集解序疏」、実践女子大学文芸資料研究所『年報』第26号、1～23頁、2007年、査読無

[学会発表] (計 2件)

- ①影山輝國、「評儒藏本『論語義疏』」、後漢経学研究会、2008年3月31日、二松学舎大学
- ②影山輝國、「『論語義疏』をめぐる諸問題」、日本中国学会第58回大会、2006年10月8日、大東文化大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

影山 輝國(KAGEYAMA TERUKUNI)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号：50152608

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し